

17 世紀前半の唐糧の運営と国家の財政負担

崔 姪姫 (韓国国学振興院)

発表要旨

唐糧とは、壬辰倭乱期に明軍のための軍糧米で、中国内地から輸送してきた穀物を指す。明軍は、軍糧を本国から自ら輸送してきて義州に蓄えておいたが、明軍が両南（湖南・嶺南）に駐屯してから、朝鮮政府は義州に蓄えていた唐糧を南方へ運ぶことに力を注いだ。ところで、壬辰倭乱の後も唐糧は消えず、異なる形で営まれた。光海君 10 年（1618）、明から「後金を攻略するための援軍数千人を徴発せよ」という咨文が下され、光海君 14 年（1622）には明の毛文龍が鉄山郡の椴島に駐屯してから、朝鮮政府に軍糧を求め始めた。そこで、朝鮮政府は両西地域、つまり平安道、黄海道から別途の結税を追徴して毛文龍の陣営に送った。毛文龍の軍隊に支給する軍糧であるから「毛糧」、あるいは両西地域のから糧穀を出したから「西糧」とも称した。1634 年（仁祖 12）に甲戌量田で三南地域（慶尚道、全羅道、忠清道）の土地の結数（結：朝鮮固有の農地面積の単位）が増え、丙子胡乱以降軍糧として費やされる穀物が減少すると、土地に追加で割り当てた結税がほとんど廃止されるものの、西糧だけは相変わらず維持され、1646 年（仁祖 23）になってから廃止された。

略歴

〈崔 姪姫/ Choi Joo Hee〉

2003 年、梨花女子大学校を卒業。文学碩士（歴史学）。2014 年、高麗大学校韓国史学科を卒業。文学博士（韓国中世史）。2014 年、「朝鮮後期 宣惠廳의 運營과 中央財政構造의 變化」というテーマで高麗大学校で博士学位を取る。後に、韓国学中央研究院（the Academy of Korean Studies）の専任研究員を経て、現在は韓国国学振興院（the Koreanstudy Institute）の責任研究院として勤めている。主要著作は、「光海君代 京畿宣惠法의 施行과 宣惠廳의 運營様相」（『韓國史研究』179, 2017）、「均役法 施行 前後 訓練都監의 財政運營 様相」（『歴史와 現實』102, 2016）, Confucian business ethics in Korea; pre-modern welfare state(Asia Pacific Business Review 22, 2016)などがある。